

# 散策の会

2023年12月 例会報告

# 早稲田界限

12月19日（火） 晴れ

- ★ 天気予報では一日中曇りで、最高気温が10℃に届かない寒い日になるということであったが、昼過ぎから陽が射ってきて、午後は穏やかな冬晴れの散策日和となった。
- ★ 定刻の1時半に高田馬場駅前のビックボックスを出発。山手線に並行しているビックボックス前の坂道を登ってゆくと、間もなく諏訪通りとの交差点である。交差点を渡り、左へ50mほど歩き、右折すると都立戸山公園の大久保地区である。芝生広場と“やくどうの広場”と称する子供の遊び場の間を歩いて行くと正面に新宿区のスポーツセンターがある。スポーツセンターの先から明治通りまでは“疎林広場”で、雑木林の中の気持ちのよい散歩道となっている。殆どの木が既に落葉しているが、まだ紅葉している木も残っているし、イチョウはまだまだ葉を付けたままである。落葉した雑木林の向こうには隣接する早稲田大学の58号館が見えている。



戸山公園・高田馬場口



疎林広場



雑木林越しに早大の校舎群

- ★ 戸山公園を出て、隣の早大・西早稲田キャンパスに入った。ここには51号館から65号館まで15棟の校舎があり、基幹理工学部、創造理工学部、先進理工学部などの学部がある。我々の学生時代は第一と第二理工学部だけであったが、科学技術の進化に伴って、現在の多様な学部構成になっている。55号館のコンコースを抜けると広場があって、正面に超高層の51号館、そして広場を囲むように多くの校舎が建っている。平日の午後2時頃なのに、この広い空間に学生の姿は殆ど見かけない。みんな教室や実験室などにいるのか、図書館などで勉強しているのか、我々の学生時代のキャンパス風景とは大分様子が違うようである。



キャンパス明治門 大隈公の銅像がある



56号館



西早稲田キャンパスにて

- ★ 早稲田キャンパスを出て、明治通りを横断してマクドナルドの角を曲がると緩やかな下り坂

で、坂を降りきると道路に沿って細長い公園があり、その一面に「この辺り尾張徳川家戸山荘古駅楼跡」と書かれた標識が立っている。ここは尾張徳川家の下屋敷のあった所で、広大な敷地の中に水戸徳川家の後楽園と並び称される大規模な回遊式庭園「戸山荘」があった。庭園に大きな池を掘って出た土で築き上げたのが「箱根山」である。人工の山であるが、山手線内では最も標高が高く 44.6mである。歩いて行くと正面に箱根山が見えてきた。山の斜面は美しく紅葉した雑木林に覆われている。山頂は円形の広場になっていて、三角点もある。ここからの展望もよく、新宿副都心の高層ビル群、早稲田方面の町並みが見渡せる。



箱根山



登山道



山頂の三角点

- ★ 登ってきた道とは反対の方へ下ると「箱根山 陸軍戸山学校址」と書かれた石碑がある。徳川家の下屋敷は、明治維新後は陸軍戸山学校となり、陸軍軍医学校、東京陸軍第一病院、射撃場、練兵場、将校社交場などが設置された。戦後は、軍事施設は撤去され、都営のマンモス団地「戸山ハイツ」や大学、高校、幼稚園、体育館、障害者センターが建てられた。ところが 1989 年 7 月 2 日、国立予防衛生研究所（現在の国立感染症研究所）の建設現場から大量の人骨が見つかった。ここには、かつて細菌戦を研究した旧陸軍 731 部隊と関係が深い陸軍軍医学校防疫研究所があった場所である。そのため、この人骨は生物化学兵器の研究で人体実験された犠牲者の骨ではないかと疑われた。しかしその後真相が明らかにされないままになっているという。（この項は吉成氏の資料による）



陸軍外山学校址



国立感染症研究所



国際医療研究センター

- ★ 右手の国際医療研究センター、左手の国立感染症センター、健康栄養研究所、障害者福祉センター（これらは早稲田大学の文学部と記念会堂と隣接している）との間の坂道を登って行くと大久保通りに出た。ここを左折して大久保通りを 700mほど行くと大江戸線の牛込柳町駅で、その先で外苑東通りと交差している。左折して外苑東通りを 500mほど行くと、左手に大変洒落たビルが見えてきた。近づいてみると、それは草間彌生美術館であった。予約していないと入場できないそうである。

その先 50mほどで左折すると漱石山房記念館がある。ここは漱石が 1907 年（明治 40）から 1916 年（大正 5）に亡くなるまで 9 年間を過ごした場所で、「三四郎」「それから」「こころ」などの作品を執筆した。現在は新宿区立漱石公園となっており、入り口には夏目漱石の胸像があり、記念館がある。また漱石関連の資料やパネル展示がある「道草庵」や、漱石の没後、遺族が飼っていた犬、猫、小鳥などの供養のための猫塚もある。記念館は月曜日が休館であるが、この日から展示品の入れ替えのために臨時休館となっていて、入れなかった。



草間彌生美術館



漱石山房記念館



記念館前のくまもん

- ★ 漱石山房記念館から 100mほど行くと左手に早稲田小学校があり、そこを左折して早稲田小学校と牛込第二中学校の間の道を行くと間もなく夏目坂という広い通りに出た。夏目坂を 200mほど下ると早稲田通りであるが、その手前に「夏目漱石誕生の地」の石碑が立っていて、その横には「影参差松三本の月夜かな」という漱石の句碑がある。



夏目坂



漱石誕生の地



漱石の句碑

- ★ 早稲田通りを横断し、早稲田中学・高校の前を通り早稲田鶴巻町西の交差点に出れば左前方に大隈講堂の時計塔が見えている。3時50分に大隈講堂前に到着した。懐かしい大隈講堂の前で記念写真を撮ったあと大隈庭園に入った。門を入ると左手に広い芝生があり、その前に池を中心とした庭園がある。芝生は元大隈邸があった場所だという。かつての大隈会館の跡地には20号館が建ち、大学本部となっており、総長室もここにある。



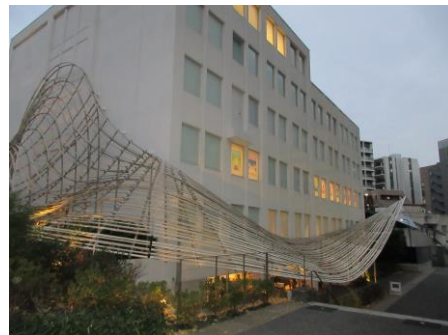
- ★ 忘年会だけに参加する人達とは、4時45分に大隈会館前で待ち合わせているが、少し時間があるので、それまで自由行動として各自の思い出の場所に行くことにした。私は第一理工学部電気通信科卒であるが、校舎はグランド坂に面した西門の傍の14号館で、木造2階建てであった。現在はスマートな建物になっており、社会科学部が入っている。その後4号館・国際文学館（村上春樹ライブラリー）へ行ってみた。ここは2018年に村上春樹氏から彼の著作物をはじめ、貴重な資料の寄贈を受けたことにより誕生したもので、2021年10月21日に開館したものである。ここは文学資料館であるとともに、文化交流施設であり、村上春樹氏の初版本など3000冊を所蔵していて、自由に閲覧できるほか、ギャラリーラウンジ、オーディオルーム、カフェなどがある。私が入館したときは、地下でジャズのライブをやっていた。



14号館前で



演劇博物館



4号館 村上春樹ライブラリー



ライブラリー1階の書棚



2階のギャラリー

- ★ 村上春樹ライブラリーを出たときは、既に日はとつぷりと暮れ、街灯が瞬き始めた。まだ5時前なので、我々が学生だった頃のキャンパス内は多くの学生が行き交い、屯していたものだが、人影が少なく静かである。あの頃の雑然として騒然としていたキャンパス風景とは全く違う感じである。

- ★ 午後5時から金城庵で忘年会を行った。学生時代に金城庵でコンパをやったという人が多く、しばし若かりし頃の思い出話などに花が咲いた。今年はコロナがひとまず終息して、社会生活が戻りつつあり、明るい兆しが見えてくる一方、観測史上最も暑い夏で、秋が短くいきなり冬が来るといふ、地球温暖化も気になる年であったが、散策の会は会員一同、元気に年を越すことができることを喜ぶたい。



大隈庭園 (12月1日撮影)

今回は2人の俳人の方から俳句を頂きました。

久々に 早稲田のそば屋で 忘年会

こころざし 校舎も高く 北の風

箱根山 母校の薔 紅葉越

金子正男

漱石の 終の<sup>すまい</sup>住処や 石路の花

街師走 早稲田に下る 夏目坂

冬日落つ 大隈タワーの 鐘の音

キャンパスの 黄昏ゆくや 冬<sup>ふゆともし</sup>灯

志賀 勉



参加者 馬道 哲、勝山成夫、金子正男、小島恕雄、志賀 勉、  
中島克三夫妻、中村光毅、牧野昭夫、水野 聰夫妻 以上 11 名

忘年会のみ参加 辻 直邦、小島幸子 以上 2 名

写真と文 小島恕雄